

こころ医療福祉専門学校佐世保校

令和5年度第2回教育課程編成委員会議事録

1 日時 令和6年2月4日（日）10：00～11：10

2 場所 こころ医療福祉専門学校佐世保校 5階 503教室

3 委員 出席：高橋 賢一郎（長崎県柔道整復師会）

上田 陽介（純心整骨院）

中野 仁、久野 貴史、池田 智恵

（敬称略）

4 主な内容

（1）開会のことば（司会 中野）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

（中野）今回は事前に議題をお示しした上で、この委員会で直接ご意見を伺いそれをまとめたい。お送りした質問票に沿って、また資料を合わせてこちらから再度ご説明し、先生方からご意見、お考えを聞かせていただく。それを参考にさせていただいた上で、どういう形で実際の教育に盛り込んでいくかということをご報告する。

（2）教育課程編成委員会

ア カリキュラムについて

（中野）本校では、令和6年度よりカリキュラムを改正する。前回、その全体をお示したが、改めて、平成29年度から追加された科目について、添付の資料をご覧いただき、それらの科目の導入が、果たして柔道整復師を取り巻く現状の改善につながるか否かのご意見を聞かせてほしい。

（添付資料の説明）

今後の柔道整復師を輩出するにあたって、学校で行う授業として必要なのか、あるいは社会に出てから実践で学んでいくことなのか。どの程度まで学校で学生に教育するか、現場の先生方のご意見をお聞きしながら、それを参考に細かい変化をつけていきたいと考えている。

（高橋）経験から高齢者の身体というのは骨が骨折しやすいような状態であったり、若い人と比べて微力な力で大きな怪我を起こしやすい。それがきっかけで寝たきりの状態になってしまったり、車椅子の状態になってしまったり、割と重篤大きな怪我につながっていきやすいので、高齢者の体の特徴を理解する必要がある。そういうところは現場に立ってからも実際に身につけていくものだろうが、頭には入れておかなければならない。

(上田) 私が心掛けていることは初検で断定して患者さんに説明しないということ。これだけ怪我しているのです、このくらい期間があれば良くなるなど、断定して説明しない。疑いを持って、素直に色々と自分で調べる。現場ではそういうことが大事になるので、学校でしておけるのは、色々な情報を持っておくこと。

(中野) 競技者の外傷予防も、高齢者の外傷予防も教科書にあるが、怪我をしましてからの回復ということを考えると個々の差もある。怪我をしない体作りを視点にして柔道整復師の持っている知識や技術をそちらに向けていくべきではないかと書かれている。高齢者の場合は、以前は負荷をかけないトレーニングだったが、今は負荷をかけさせるトレーニングに移行するなど、考え方が変わってきている。柔道整復師もそういった観点から先生が言われたように臨床的なものに結びつけていくためには、基礎的なことをしっかりと学ばせなければいけない。ここは大事な科目だということ。
社会保障制度／職業倫理についてはどうか。

(高橋) 慢性的な疾患というか、症状を訴えてくる患者さんも結構おられるが、保険的なことと言えばノー。取り扱い業務範囲のものと外のをしっかりと理論付けて説明できることが大事。

(中野) 1年生では全然分からないので、ある程度の知識を持たせた上、3年生で療養費とかそういった社会保険についての授業をしている。今ご意見いただいたところでやはり大事な観点としてきちんと伝えておかなければならない。

(上田) 整骨院でバイトしていると分かりやすい。作り方やある程度の流れは教える。保険と実費は完全に分けるという部分は知っていた方がよい。

(久野) 1年生で総論の授業で診察というところがあり、そこで病気の話も含めて、初診のときに最初に見るところは業務範囲なのか外なのかという話をする。業務範囲だったら、自分が持っている技術、技能、能力でできるかできないかの判断をし、できない場合は病院を紹介するという話をする。実際には怪我よりも肩こりや腰痛の年配の患者が多かったりするので、保険適用のこともしっかり分けるという指導をしている。

イ 学生の中途退学（休学）の防止について

（中野）近年、入学者が高校新卒者の占める割合が多くなり、学習習慣のない高校時代からそのまま専門学校へ入学するケースが多くなっている。そのため、医学の専門基礎科目の学習が大きな負担となり、中途退学、進路変更となるケースが後を絶たない。本校スポーツ柔整科が、現在、専門実践教育訓練の対象となっているが、一昨年、昨年と入学者に対して修了者は80%を割っているため、次年度までが給付の対象となり、それ以降2年間は給付対象から外れてしまう。そのような事もあり、入学者を全員、卒業させるよう、中途退学者を防止することが近々の重要課題となる。どのようにすれば、新卒入学者の向学心を高め、学力を上げ、目標である国家資格取得に繋がられるか、ご意見を伺いたい。本校が現在取り組んでいるのは

- a. 入学当初から、柔道整復師への意識を持たせるため、就職活動や施術者、卒業生による講話の機会をつくる。
- b. 就職イベントなどへ参加させる。
- c. 低学力者への放課後補習を週3回程度実施する。
- d. 高校部活動、地域スポーツイベントへのトレーナー活動に参加させるため手技療法やテーピングを放課後に指導する。

（高橋）学生に将来の自分がどういうふうな人生を生きてどうなりたいのかということイメージにさせることが大事でそれがモチベーションとなる。

（上田）一人一人にフィードバックをすることが大切。勉強は得意ではないけど、実際に資格を取って現場に出ると良い働きができる人もいるので、勉強だけが全てではない。一人一人に合わせた学習プランを先生方がされていると思うが、自分で目標設定していくのが一番大事なこと。

（中野）難しい課題ではあるが、中途退学者が一人もいないように、できるだけ色々なことをやっていきたい。

ウ 学生募集について

(中野) 前回もご意見をいただいたが、少子高齢化、高等教育無償化など、専門学校への入学者減少が最大の課題。次年度は、定員30名に対し、26名が入学予定となっている。今年度17名より5割増加となっているが、引き続き最大の課題。県北唯一の柔道整復師養成施設として、今後、どのような募集手段を用い、応募、入学に繋がればよいか、ご意見を伺いたい。本校が取り組んでいるのは

- a. 月1回のオープンキャンパス開催。※6月、7月は回数を増加。
- b. 県内高等学校への訪問 ※進路指導教員との面談
- c. ガイダンスへの参加 ※高校ガイダンス、合同ガイダンス
- d. 広告宣伝 ※学校垂れ幕、バスのラッピング広告(1台)、公共掲示板へのポスター掲示、臨床実習施設へのポスター掲示 等

私自身、柔道整復師の誇りを持っていて良い仕事だと自負しているが、それをどう伝えて入学者を増やしていけるかという部分の思いはどうか。

(高橋) オープンキャンパスに来校した学生でも自分の考えではなく親など周りの人から言われて子供のころに整骨院に行って何となくこんな仕事良いなおぼろげなイメージを持っている学生もいる。人のためになって、社会の役に立つ素晴らしい仕事なんだということを伝えることが非常に重要。

(上田) 社会人向けのポスターなどでもう少し社会人が増えると良い。あとは、学校名を周知すること。メディアへの露出を多くしてとにかく知ってもらうこと。学校外壁に出した垂れ幕は良かった。何の学校なのか良く分かる。

(高橋) 各整骨院に学校のパンフレットを置いてもらえるようお願いに上がってはどうか。

(中野) はい。ご意見いただいたことを取りまとめ、今後とも積極的に動いていく。教育課程編成委員会は、関連した業界の方々からのご意見をいただいて、教育の推進に関連させていくということが大きな目的。今後とも参考にさせていただく。

(3) 教育課程編成委員会の閉会

(中野) 来年度は7月頃を予定している。

今回のご意見を議事録によって内容を確認し、報告をする。